

3 実習助手の実習教諭免許（単位）取得に関する調査

全国高等学校農場協会振興局

I. 調査目的

実習に携わる職員のうち実習教諭免許取得希望者がどれだけいるのか、また実習教諭免許取得希望者が単位取得の機会があるのかを把握し、十分でなければ本協会より関係各機関に働きかけをおこなう資料といたく、本調査を実施した。

II. 調査結果

1 調査対象者に関すること

1) 実習教諭・実習助手等、実習に携わる職員の配置がありますか、○×を選択してお答えください。

調査の結果、372校/374校の学校から回答があった。

実習に携わる職員の配置割合では、配置されている学校は97.8%の364校である。

実習に携わる職員配置	ある	364校	97.8%
	ない	8校	2.2%

2) 1の問いでアと答えた学校では、実習に携わる職員は何人いるか、年代別にお答えください。

①実習に携わる職員の割合

実習に携わる職員割合	実習教諭	699人	30.2%
	実習助手	1106人	47.8%
	期限付等	362人	15.6%
	再任用	149人	6.4%

②実習教諭年代別割合：8割以上が40代、50代、60代である。

実習教諭年代別割合	10代職員	5人	0.7%
	20代職員	12人	1.7%
	30代職員	81人	11.6%
	40代職員	262人	37.5%
	50代職員	323人	46.2%
	60代職員	16人	2.3%

③実習助手の年代別割合：30代が4割近い。

実習助手年代別割合	10代職員	14人	1.3%
	20代職員	225人	20.3%
	30代職員	420人	38.0%
	40代職員	298人	26.9%
	50代職員	138人	12.5%
	60代職員	11人	1.0%

④期限付等年代別割合：20代、30代で7割近い。

期限付等年代別割合	10代職員	1人	0.3%
	20代職員	165人	45.6%
	30代職員	83人	22.9%
	40代職員	51人	14.1%
	50代職員	18人	5.0%
	60代職員	44人	12.2%

⑤再任用年代構成：ほぼ60代である

再任用年齢構成	60代職員	142人	95.3%
	その他	7人	4.7%

3) **2のア** 実習教諭の中で、高校一種免許状（実習）を取得した職員が何人いるかお答えください。

実習教諭 669人中 473人（67.7%）が高校一種免許状を取得している。

4) **2のア** 実習教諭の中で、令和元年度までに実習助手から任用替えした職員が何人いるかお答えください。

実習教諭 669人中 288人（41.2%）が実習助手から任用替えし実習教諭となった。

5) **2のア及びイ** の職員の中で、免許認定講習の受講を希望する職員が何人いるか、年代別にお答えください。

免許認定講習の受講希望者割合：20代、30代で7割近い。

免許認定講習受講希望者割合	10代職員	7人	1.6%
	20代職員	122人	27.2%
	30代職員	200人	44.6%
	40代職員	98人	21.9%
	50代職員	21人	4.7%

2 修得単位に関すること

1) 農業関係科目（必修4単位）の修得単位数を、修得した単位数ごとの人数をお答えください。

教科に関する科目（農業：必修4単位）単位修得状況：半数近くが必修4単位数修得していない。また単位未修得者（0単位）が全体の4分の1以上である。

農業関係科目（必修4単位） 単位修得割合	4単位	443人	54.3%
	3単位	39人	4.8%
	2単位	65人	8.0%
	1単位	55人	6.7%
	0単位	214人	26.2%

2) 職業指導（必修1単位）の修得単位数ごとの人数をお答えください。

職業指導に関する科目単位修得状況：全体の3分の1程度が単位を修得していない。

職業指導（必修1単位）単位 修得割合	1単位	533人	68.2%
	0単位	249人	31.8%

3) 教育の基礎理論に関する科目の修得単位数ごとの人数をお答えください。

教育の基礎理念に関する科目単位修得状況：単位未修得者（0単位）の割合は3割近い。

教育の基礎理念に関する 単位修得割合	3単位	299人	38.0%
	2単位	146人	18.6%
	1単位	108人	13.7%
	0単位	233人	29.6%

4) 教育課程や指導法、生徒指導、教育相談、進路指導に関する科目の修得単位数ごとの人数をお答えください。

「教育課程及び指導に関する科目」並びに「生徒指導、教育相談及び進路指導に関する科目」修得状況半数近くが3単位未満であり、単位未修得割合も3割近い。

教育課程、指導法等に 関する単位修得割合	5単位	221人	28.2%
	4単位	64人	8.2%
	3単位	109人	13.9%
	2単位	108人	13.8%
	1単位	75人	9.6%
	0単位	207人	26.4%

5) 令和元年度に実施された東京農業大学または酪農学園大学の認定講習会に参加した人数をお答えください。

認定講習会参加人数	東京農業大学	28人	6.3%	※
	酪農学園大学	24人	5.4%	※

※1の5) 免許認定講習受講希望者総数448人より算出

Ⅲ 実習教諭、実習助手に関する各都道府県独自の規定がありましたらお答えください（原文）。

- ①採用になった時点で職名は「実習教諭」である
- ②給料の号俸が一定以上に達して、教員免許か国家資格を所有している者に対してレポート課題が課され、合格した者は「実習講師」となり2級に渡る。その後10年経過か退職2年前に「実習教諭」に職名変更となる。
- ③採用になった時点で職名は「実習助手」。任用替えをすることで、「講師（実習担任）」→「教諭（実習担任）」となる（職名は「実習助手」）。「講師（実習担任）」になるためには、認定講習にて農業実習に関する高等学校教諭免許状を取得しなければならない。
- ④実習教諭になるためには年齢が40歳に達した者で単位を取得した者が試験を受けて合格しなければならない。
- ⑤採用になった時点で職名は実習助手である。一定の単位を取得し、ある年齢になると実習主任になる。

実習教諭という職名はない。

- ⑥採用になった時点で職名は「実習助手」です。募集も実習助手以外ありません。実習教諭になるためには、申請が必要、教諭免許を取得している者は、即申請可。認定講習にて単位を取得した者は、その時点で申請をする。申請については任意です。
- ⑦実習教諭になるためには、申請が必要、教諭免許を取得している者は、即申請可。認定講習にて単位を取得した者は、その時点で申請をする。申請については任意です。
- ⑧採用から退職まで「主任実習助手」及び「実習助手」である。
- ⑨本県は実習教諭という職名はなく、全員実習助手である。免許認定をすることにより1号給から2号給へ昇格し給与も上がる。
- ⑩採用時点は「実習助手」であるが、48歳以降に県の試験を受け合格すると「主任実習助手」に昇給する。
- ⑪実習教諭になるためには、認定講習にて単位を取得するとともに一定の任用期間がなければならない
- ⑫実習教諭になるためには年齢が40歳に達した者で単位を取得した者が試験を受けて合格しなければならない。
- ⑬実習教諭になるためには、認定講習にて単位を取得し申請する。
- ⑭実習教諭の試験があり、実習助手経験5年以上で、認定講習の単位を取得した後試験を受けて合格
- ⑮実習教諭は再任用後、実習助手になる。実習助手から実習教諭になるためには認定講習にて単位を取得しなければならない
- ⑯採用時「実習教諭」。在職中に「主幹実習教諭」となるが20年近く採用がない。
- ⑰実習教諭になるためには、認定講習にて単位を修得と、年数、校長推薦
- ⑱実習教諭になるためには、認定講習にて単位を取得した後に試験を受けて合格しなければならない。
- ⑲職名は実習助手であるが、呼称として学校要覧等で実習教諭を用いてもよい。

IV まとめ

単位修得数の2極化が見られた。40、50代は比較的単位を修得していることがうかがえる。実習助手の先生方の4割(448人/1106人)は免許取得の希望がありながらも、修得単位数は必要単位数以下の状態が続いていることが分かる。また、免許取得希望者は20、30代の先生方が多かった。免許取得のための講座は限定された地域でしか開催されておらず、取得したくても厳しい状況にあると思われる。一方で都道府県により実習教諭になるための基準が違うことも分かるため、免許取得希望は都道府県により差が生じているのが現状である。今回の結果を踏まえ、免許取得が必要な実習助手の先生方には取りやすい環境を作る必要がある。今後も関係各機関に働きかけを行いたい。